

「大学入試英語成績提供システム」参加表明を受けて

2018年3月20日(火)

TOEFL iBT®テスト主催団体である米国 Educational Testing Service (ETS) は、独立行政法人大学入試センターが、平成 29(2017)年 11 月 24 日に募集を開始し、12 月 20 日に締め切られた「大学入試英語成績提供システム」に参加を表明しました。

詳細:独立行政法人大学入試センターホームページ

http://www.dnc.ac.jp/corporation/daigakunyugakukibousyagakuryokuhyoka_test/en_info.html

最終的に採用される資格・検定試験の決定は、平成 30(2018)年 3 月末目途とされていますが、このたび、参加要件に記載されている以下①、②の 2 点に関して公表させていただきます。

また、③に関しては、米国 ETS と TOEFL テスト日本事務局である当協議会で決定した事項になりますので併せてお知らせいたします。

- ① 受験料の設定に関して
- ② 経済的に困難な受験生への受験料配慮に関して(特別受験料の設定)
- ③ 受験対象期間に関して

① 受験料の設定に関して

2018年3月現在、日本国内における TOEFL iBT テスト受験料は、235USドルです。この受験料の設定に関して ETS は以下のように述べています。

TOEFL iBT テストは、テストのセキュリティ、公平性、妥当性を最高基準に保つため、多額の費用が投資されており、以下のような理由から合理的かつ適正な受験料に設定されています。

- 受験地域によって異なるテスト運営費と、非営利組織としてのミッションに基づき全受験者に受験機会を提供するために受験料を可能な限り低く設定することとのバランスを保持(受験料は国により異なる)
- 最先端のセキュリティツールやプロセス(音声による生体認証システム等)の開発・導入のための投資
※年間 6,000 万 USドル以上
- テストおよび問題作成時において最高の品質と公平性を確保するために大規模な開発過程を適用・実施
- 一元管理された採点者の選定、トレーニング、モニタリング、採点の質の継続的なチェックの実施
※人間による採点は費用がかかるが、公平かつ客観的に評価するため、複数の採点者(匿名)による採点方式を採用
- スコアの妥当性の裏付けのため、最高レベルの研究プログラムを継続的かつ厳密に実施し、数百の論文を公表
- 世界中の受験者に受験機会を提供するため、180 か国 4,000 か所以上のテストセンターネットワークを運営
- 世界中の受験者にオンラインおよび紙教材・資料等のリソースを提供(無償含)

上述のように、TOEFL iBT テスト実施においてはハード・ソフト両面の充実をはかっており、受験者数の多寡に関係なく

一定の費用が発生します。その費用の特性から、受験者増加による費用抑制、またはそれに伴う受験料金の値下げにつながるものでないことをご理解くださいますようお願いいたします。

② 経済的に困難な受験生への受験料配慮に関して(特別受験料の設定)

2018年3月現在、経済的に困難な受験生の全受験者に対する割合や、受験料配慮の対象者が参加を表明した資格・検定試験のうち、どの資格・検定試験を受験する傾向にあるか等の判断は、各資格・検定団体に委ねられています。

米国 ETS は本状況の中、仮に「大学入試英語成績提供システム」に採用された場合、受験料の 15%を減額した価格で受験いただけるよう手配することになりました。

③ 受験対象期間に関して

大学入試センターが公表している受験対象期間は、平成 32(2020)年 4 月～12 月までとされています。

TOEFL iBT テストは、月に 2～5 回程、年間約 45 回の受験日が例年設定されています。受験申込は、テスト日の約半年前から可能です。しかしながら、「大学入試英語成績提供システム」においては、受験者のスコアを 12 月中に大学入試センターが受理する必要があることから、受験対象期間を 4 月～11 月までとすることに決定しました。

<本件に関するメディアからの問合せ先>

Educational Testing Service (ETS) 広報担当

APCO Worldwide 内:担当 角田(ツノダ) / ウェンツ

TEL:03-6457-9702

EMAIL:etsjapan@apcoworldwide.com